

神奈川県下の特殊コレクション

石 井 敬 士
池 田 政 弘

神奈川県下の特殊コレクションについては現在、まだ完全に把握されていないのが現状である。そこで、充分にご紹介することができないが、ご了承願いたい。

神奈川の地が、現在の日本にとって、どのように重要な地歩にあるかは誰でもが、充分ご承知のとおりである。

神奈川県は長い日本の歴史のなかで、しばしば主役を演じてきている。たとえば、武家社会形成の出発点となった鎌倉のように神奈川に住む人たち自身が主役だったこともあれば、米国使節ペルリの乗った黒船が、現在の横須賀市の久里浜海岸に来航し日本の開国に結びつき、それまで名もない戸数100軒(1854年3月=安政元年)にも満たなかった寒村、横浜に港が開かれたことや、マッカーサーの厚木進駐のように新生日本の舞台を提供したことなど、さまざまな形態で演じているのである。

また、鎌倉、小田原、横浜そして東京に隣接する川崎など歴史のページがめくられるごとに、焦点のあたる地域がことなるのも他県にみられない特色の一つである。

このことは、おのずと図書館における資料構成に影響を直接、間接あたえずにはおかない。

横浜市図書館における郷土資料中の開港関係資料、横浜絵・絵図などはまさにそう

である。

これらは、横浜という近代日本のあけぼのを示す資料群の最たるものである。ちなみに、横浜絵などは「開港時の貿易港横浜を背景として、江戸幕末期に起った異国情緒横溢した浮世絵の典型的なもので、鎖国三百年の夢から醒めた封建日本が近代日本へ移る過程において作られた錦絵の一分野」(同館蔵書目録、横浜絵・絵図篇序)ということができる。

これら資料の検索には『蔵書目録、郷土資料篇』『開港関係資料目録』『蔵書目録、横浜絵・絵図篇』などが同図書館より刊行されている。

以下「郷土」と「歴史」とのかかわりあい、ご紹介してみたい。

鎌倉時代中期に称名寺の開基北条実時の創立にかかわる金沢文庫は、実時の蔵書を中心に、^{あきとき}子頭時、^{さだあき}孫貞顕らの集めた図書、漢籍、仏典を蔵し、足利学校とともに中世関東の文教の二大中心をなしていた。

『徒然草』で有名な兼好法師なども、ここをたずね勉強したものの一人で、現在兼好法師自筆の書状やその他兼好法師関係の史料、徒然草諸本がある。これらは兼好法師関係史料として整理されている。

さらに称名寺の仏像、^{いけみき}什器や古文書類、鎌倉時代の連歌懐紙など古書20,000冊 古

文書 7,000 点があり称名寺古文書、金沢文庫古書及び古文書として整理保管されているのである。

鎌倉時代の、これらの中世文書類と同時
に鎌倉市図書館の郷土資料2,100タイトル、
2,690 点中には源頼朝寄進状、鎌倉将軍家
寄進状、関東下知状などの鶴岡八幡宮古文
書集がある。

これらは武家社会形成のあけぼのである
鎌倉時代考察のよき基本資料となろう。

鎌倉が全国の政治中心地となつてから箱
根—小田原—相模湾岸の東海道が使われる
ようになった。江戸時代には箱根峠道が東
海道の本道となり、箱根に江戸防衛の見地
から関所が設けられ、いわゆる「入り鉄砲
に出女」を嚴重に取り締まったのである。
この取締りの任にあつたのが、小田原城
主、大久保氏である。

小田原市立図書館の郷土資料中には小田
原有信会文庫として、小田原藩関係資料
(166点)がある。同文庫は明治維新の廃藩
後旧大久保藩主を中心として、藩士約500名
をもつて組織された有信会から寄贈された
ものである。

また、旧小田原藩士の家柄である板倉乙
女氏より寄贈された板倉文書(135点)があ
る。これは軸物、絵図等含めた資料で、江
戸時代後半の小田原藩関係を研究するうえ
に貴重な資料である。今日旧藩主大久保家
の資料は戦災および火災に遭つて烏有に帰
してしまつたので、これらの資料は大久保
藩関係の研究をする際には、必要不可欠の
ものである。

さらに江戸時代小田原の宿駅、交通関係
を主とする片岡家文書(364点)がある。こ
れは故片岡永左衛門氏より寄贈されたもの
で、小田原町方関係資料、特に江戸時代本
陣の研究、交通史の研究にとってかかせな

い基礎資料である。

この他宿駅、交通史関係資料には、神奈
川県立図書館・文化資料館に故石井つる氏
より寄託を受けている東海道神奈川宿本陣
関係資料である武蔵国橋樹郡神奈川宿本陣
関係文書(1,062点)がある。

同館にはまた、高橋基氏より寄託を受け
た関東取締役関係である武蔵国橋樹郡上白
根村名主関係文書(209点)、年貢取立帳、
石高帳や保土谷宿助郷関係文書、宗門人別
改帳、黒船渡来に関するチョボクレ等が含
まれている武蔵国久良岐郡根岸村名主関係
文書(新井家文書、533点)、寛文期の検地
帳、地租改正関係文書、明治初年の戸籍な
ど村名主文書の武蔵国南多摩郡上宅分方村
文書(296点)などがある。

横須賀市図書館には浦賀奉行組同心、臼
井藤十郎、藤五郎父子の職務上の手録を中
心として奉行所の公文書、同役の手扣等しゅこうの
臼井家文書(181点)がある。さらにこの臼
井家文書とほとんど同時代の文書が横浜市
図書館にある。やはり浦賀奉行組同心中村
容助職務手録の中村家文書(45点)であ
る。

この中村家文書はさきの臼井家文書にか
なり公文書が含まれているのに対して、私
事に属するものがかなり含まれている。い
ずれにしても江戸幕府権力の重要な支柱
である奉行所、特に江戸湾の防衛の指令基
地としてのみならず江戸経済を左右する商
品流通機構の統御機関としての浦賀奉行所
に関する史料として貴重なものである。

江戸幕府権力に直接隣接した関係から川
崎市立中原図書館の郷土資料中には、幕府
の殖産興業政策にそつて進められた新田開
発、砂糖製造等の産業史の資料としての文
書類のほか絵図、金融、学芸関係にまでお
よぶ池上家文書(1,600点)がある。また川

崎市立高津図書館には現川崎市高津区内で発掘された考古資料を中心に紹介している高津郷土資料集がある。

以上、公共図書館を中心とする郷土資料中の、近世文書類の特殊資料について記載したが、郷土資料中には、その郷土とかかわりの深い個人名をもった資料など、まだまだ、数多くの特殊な資料があることは、いうまでもないことである。この点、充分紹介できないことを、ご了承お願いしたい。

つぎに、紙数の関係から個人の旧蔵書、個人を記念してもうけた文庫、個人の寄贈によってもうけた文庫として各館の独自なコレクションを列挙しておこう。

歴史、政治、経済、文学や各種の参考図書など、全般的資料であるコレクションを列挙すると、県立図書館・文化資料館には旧横浜アメリカ文化センターライブラリーの所有する蔵書でほとんどが洋書であるACC文庫(10,714冊)、フェリス女学院創立者神学博士、ユージン・S・ブース氏の長男で日本の水産業、農業畜産林業等の開発に多大の貢献をなしたフランク・S・ブース氏(1880-1957)の旧蔵書であるブース文庫(洋書2,000冊、寄託)、また昭和41年10月ベストセラーズの展示会をおこない以後収集せられた明治以降のベストセラーズ文庫等がある。

鎌倉市図書館にはほとんどが明治年間に刊行された資料で、鎌倉市長等を歴任した鈴木富士弥氏(1882-1946)から寄贈された富士文庫(和書600冊、洋書約3,100冊)があり、平塚市図書館には長崎屋(株)創始者、故岩田長七氏の遺志により未亡人、岩田イキ氏からの寄付金によって購入された岩田文庫(和書1,504冊、洋書306冊、その

他)がある。

また横浜市立大学図書館には元同大学学長であり、昭和38年の鶴見事故で亡くなった三枝博音博士の旧蔵にかかわる三枝博音文庫(和漢洋約6,000冊)がある。

哲学部門にはいと横浜市立大学図書館には、我国における梵曆研究(仏教宇宙説)、護法運動関係資料の大半が蒐集されているという、工藤康海師の旧蔵にかかる梵曆蒐書(113タイトル)、大倉精神文化研究所には研究所の性格もからまって、仏教全般が収集されている大周寺文庫(1,492点4,053冊)、神社、仏閣、古記録、影写本が収集されている古文書古記録影写副本(280点759冊)、漢学者であった故服部富三郎収集にかかる山崎闇齋学派の著作類が収集されている服部文庫などがある。

さらに、この部門で神奈川の特種コレクションを語るとき、決して除外することができない資料がある。小田原市立図書館の報徳集書(339点)がこれである。

この報徳集書は郷土が生んだ偉人、二宮尊徳の業績を広く顕彰する目的から昭和8年より鋭意収集されてきた貴重な資料である。

歴史部門にはいと大倉精神文化研究所には旧姫路藩主故嗣原忠次氏からゆずりうけた、江戸中期から明治初期までにかかわる日本史、国史などの嗣原文庫(446点3,927冊)、戸籍、諸記録、特に人別帳、宗門帳などの収集家であった故金沢甚衛氏からゆずりうけた金沢本(510点)、そして東洋学者であった故松井等氏の収集にかかわる中国関係資料、朝鮮満州関係資料である松井文庫(1,544点4,404冊)がある。

このことと関連し、小田原市立図書館には、元満鉄総裁山崎元幹氏より寄贈された山崎元幹文庫(1,173点、1,592冊)がある。

この文庫には昭和7年～11年までの満鉄重役会議決議録ほか部外秘の資料、調査部から出版された農業、鉱業、都市計画あるいは対ソ対支関係その他数多くの資料があり、戦前日本の満洲統治および中国関係を知る上の基礎資料となるであろう。

また横浜市立大学図書館には、戦後発行されたり複製されたりした県史・市郡史の**地方史関係資料**（約6,000点）、「寛永輿地図」「改正地球万国全図」など日本制作世界図を中心とした**地理関係図幅**（57点）などがある。

社会科学部門には特に一大工業地帯である京浜工業地帯を有している関係から社史、労働組合史、労働運動史、経済団体史などのコレクションである県立川崎図書館の**社史・労働組合史・実業家伝記〔文庫〕**（約3,000冊）、横浜市立大学図書館の**労働運動史資料**（約1,000冊）、**社史・産業史・経済団体史**（約2,500冊）などがある。さらに同大学図書館には明治以降発行された主な経済、産業統計資料がほとんど収集されているという**本邦統計資料**（2,000点、20,000冊）がある。

神奈川大学図書館には金融史、恐慌史に関する貴重な文献が数多く含まれ、特にフランスの古典が圧倒的に多い、山口茂氏から寄贈の**山口文庫**（和書1,081冊、洋書1,293冊）などがある。

小田原市立図書館には**山県公文庫**（667点1,017冊）がある。山県公自身の書入本、傍線本、蔵書印、押捺本や稀覯本が多数含まれている。また日本陸軍創設に当り仏陸軍律を検討し、その当否が書きこまれたものなどが含まれている貴重な資料である。

自然科学部門には神奈川県立博物館所蔵の植物学関係資料である**沢田文庫**（和書

318冊洋書675冊）、横浜市立大学図書館医学部分館所蔵の江戸中期から明治初年にかけて発行された医史学関係資料である**高田文庫**（250点約1,200冊）などがある。

工学部門にはいと京浜工業地帯をバック・グラウンドとする県立川崎図書館には京浜工業地帯にかかわる多くの資料がある。1966年に『京浜工業地帯文献目録』が同館から発行されている。なお今日増補版発行の準備が進められているとのことである。

産業部門にはいと麻布獣医科大学図書館には同大学の性質上から細菌学、伝染病学、畜産学、乳肉衛生や獣医学関係資料の文庫がある。

北海道大学教授、北里研究所部長、日本獣医学会理事等歴任した葛西勝弥氏旧蔵にかかる**葛西文庫**、東京大学教授を歴任した浦野慶太郎氏収集にかかる**津野文庫**、麻布獣医畜産専門学校長、陸軍獣医少将を歴任した内村兵蔵氏旧蔵にかかる**内村文庫**などである。

芸術部門には県立図書館・文化資料館に舞踊、演劇関係図書である**花柳道之助氏旧蔵資料**（678冊、寄託）や、小田原市立図書館にある演劇関係資料である**木村錦花文庫**（1,072点、原稿340点）などがある。

文学部門には郷土人という関係から川崎市立中原図書館に**岡本かの子資料**、佐藤惣之助資料があり、小田原市立図書館には自筆原稿を含めた**牧野信一資料**がある。県立図書館・文化資料館には故尾崎孝子氏収集にかかる短歌集の**尾崎強氏旧蔵資料**（約15,000点）、故飯田九一氏収集にかかる俳諧関係資料である**飯田九一氏旧蔵資料**（3,903点、寄託）などがある。

（昭和48年11月末記）

（いしい・たかし 神奈川県立図書館）
（いけだ・まさひろ 同）